

1. 2022年活動方針

① 2023年の支部総会の検討。

- ・2023年6月4日（日）
- ・ホテル椿山荘東京

現時点での会場を確保している。しかし、感染症の状況や会員には高齢者が多いことから、通常と同程度の「飲食を伴う懇親会」方式は開催可能か。その見極めをどうするのか。

会場のホテル側とも協議しながら、評議員会で決めていきたいと思っている。

② コロナ禍で薄れつつある会員の絆。特に若い世代と繋いでいく方法。協議で検討したい。

2. 協議 発言録（要旨）

※以下、敬称略

支部長

若い世代が加入しサイクルを回していくことが、組織の循環、継続に繋がる。これまで歴代支部長を中心に、様々な取り組みを行ってきた（総会パンフ記載の資料参照）

しかし、若い世代の意識や社会の仕組みも変わってきた。一番大きな要因は「個人情報」の意識だ。これは大切なことではあるが、「西高」「嚶鳴同窓会」と言うだけで簡単に得られた情報が、個人単位に確認しなければ得られなくなってきた。また、若者世代は個人意識が強くなり、学年全体での繋がりを持ち続けることが少なくなっているように感じる。加えてコロナ禍である。

今日は主に2点について、意見を聞きたい。

1点目は支部会員の入会について。

西高卒業時に18年分の同窓会費を前納している。故に、支部会費を納入してもらう会員は卒業して18年目からということで、36歳の入会促進が課題だった。ウエルカムパーティーは正にそれに主眼を置いた事業だ。しかし、先ほど述べた要因などから、36歳の同窓生への連絡が取れにくくなっている。

そのため、近年は卒業時の（首都圏進学者の）支部登録に軸足を置き、「住所」の他、メルアドやラインなどのSNSも登録してもらっている。そして、ある年齢（会費納入対象年齢）になった時点で学年全体を意識してもらう。具体的には学年会発足のための資金援助をし、学年会開催から学年名簿作成に繋げ、学年での支部活動、支部のサイクルに入るという方向性を目指している。この考え方について、意見やアイデアなど出してほしい。もう1点は、若い世代を育成するための活動について。

田中克子支部長の時代、資金難の中、新事業を行うためにオリジナル一筆箋を作成したのが、支部グッズの始まり。この売上金は「支部の会計ではなく別会計とし、新卒生や若手会員との繋がりのためだけに使う」と決め、特別会計とした。1冊ワンコインの500円とし、「ワンコインで支部を救おう」と呼びかけ、山形の総会でも販売し、相当数の購入があった。その後、会員デザインのハガキや、付箋とクリアファイルも新たに作成した。グッズ購入が、若い世代への応援に繋がる。その資金で、首都圏の新卒生を支部総会へ招待していた。今はコロナ禍で招待ができないが、これからは「次世代育英資金」として様々な形で活用していきたいと思っている。グッズの販売促進、育成・支援方法などについて、意見やアイデアをほしい。

宮沢前監査

グッズだが、総会等で販売するだけでなく、広く誰もが気軽に購入できるような方法を考えたらどうか。例えばグッズの担当者や購入希望がある場合の連絡先を明確にするとか。

役員（支部長、会計）

HP上でもPRしている。HPからでも購入できる。会計が担当しているが、HPに明確な担当者は明示してい

なかった。そこは改善していきたい。またネットを使わない、電話などでも対応できるようなPRや購入の方法を考えていきたい。

宮沢

その際、送料が明示されているとよい。またまとめ買いで「〇円以上は送料無料」などの方式も決め、HPに載せたらどうか。購買意欲を増すような基準を作り、明示するのは効果があると思う。

役員（支部長）

そのようにしていきたい。今のところ支部総会、本部総会、評議員会での販売だが、学年会などでもぜひPRをお願いしたい。評議員からグッズ作成の主旨を説明し、購買に繋げていただきたい。送料に関しても、提案された方式を採用するなど、しっかりとした基準を策定していく。

S43 年卒

本日の資料に「お知らせ」（総会や支部だより）の発送数の表がある。学年により考え方や事情が異なると思うが。自分が役を引き受けた時のことを話したい。まず、関東近郊の学年名簿にある全ての人に手紙を出した。その後も継続して「お知らせ」を出し続けることが支部活動への繋ぎになると思い実行してきた。もちろん、発送数と会費納入口数の差が出る…費用の問題があるということは分かっている。卒業して18年間は長い。その間、継続したなんらかの情報を伝えられればよいと思うのだが。18年後にどのように「初めてのお知らせ」を出すのか。難しい。18年間で少しでも繋がる工夫があれば…と感じた。

役員（笠井顧問）

私が支部長の時に、少し発送数を見直してほしいとお願いしたこともある。なるべく多くの会員宛に発送するのがよいのは確かだが、経費上の理由もあった。納入が全くない人に毎年出すのも問題がある。しかし、たまにいつもは出さない人に発送してみるとか、時には学年名簿の全員に一斉発送するとか。私の経験では、そうしたことで会費納入ばかりか、総会出席もあったりする。そんな工夫をしてみたらどうか。工夫が大切だ。

役員（支部長）

学年で発送数について工夫をしている学年はあるか？

S30 年卒

5年前くらい前までは全員に出していた。が、近頃では会費納入者が決まってきた。それで5年前に発送数を見直した。そして3年間、会費納入がない人宛には発送しないことにした。

役員（支部長）

発送数については、悩ましい。出さないとな入も参加者も増えない。が、費用対効果の問題もある。

H9 年卒

私が本日参加者の中では一番下の学年だ。「お知らせ」発送数は自分たちの学年は20人（去年は21人）。この数になるまで大変だった。どうやって学年の支部会員を増やしたかという点。

「支部のお知らせの発送をしたいので」と山形の総会幹事に頼んだ。山形の総会幹事学年になった時、首都圏からも幹事学年として手伝いに行った。その時に山形の幹事の代表者に頼んで、総会に参加した首都圏在住者から現在の住所を聞いてもらった。もちろん、個人情報があるので、承諾を取った人にだが。この山形総会の幹事学年になる時というのは、丁度一緒に集まるきっかけにもなり、会費納入の機運が高まる時でもあると思う。卒業して間があり、横の繋がりも薄れていたのも、山形を介して繋がることは大変効果があった。お勧めしたい。

役員（支部長・副支部長）

今発言されたH9卒の方は、ウェルカムパーティに参加されていた方だ。山形の総会を支部の学年纏めのきっかけとするのは王道だと思う。自分たちも本部総会へ（支部役員として）招待された際、「首都圏在住の方にお知らせください」と支部長やHPの連絡先を記載したチラシ作り、幹事学年や若い学年のテーブルへ配ったこともある。幹事学年は当日多忙なので、あまり話ができずに終わってしまった。前もって代表者へ連絡を入れるなど工夫し、役員会としても山形の総会での情報収集を行っていきたい。

他に若い学年の方の意見を聞きたい。

H7 年卒

私は山形の総会にはかかわっていないが、若い世代への連絡方法としては実家への連絡が有効ではないか。支部名で葉書を実家へ出すとか。ただ誰が首都圏に来ているかわからないので、全件に出さねばならないかもしれないが。

役員（支部長・副支部長）

どこかの時点で、ある学年を対象に一斉に出してみようというのも一方法かもしれない。

近年、少子化などで西高の定員が減少している。また山形東高校は半数（以上？）が女子だとも聞く。東高のクラス数は変化ないと聞いているが、近年西高は1学年200名を切っている。また山形の大学が増え、仙台は通学可能圏になるなどの要因もあることから、首都圏への進学者が減少傾向のように感じている。新名簿を見ても首都圏の住所が少ない。支部だよりの特別号を新名簿から拾った首都圏在住の若い世代（支部への登録が無い世代）へ送付したが、10学年分で100通程度だった。もちろん住所を実家に行っている人もいるかもしれないが、そもそも支部会員となる対象者が減少傾向なのかもしれない。

田中前顧問

首都圏に進学している今年の卒業生は何人ぐらいか？

役員（支部長・副支部長）

（西高へ）問い合わせてみる。

2019年に同窓会入会式へ出席した際は、「首都圏へ進学予定の方は？」と聞いてみたところ、手が上がったのは20名くらいだった。…なんだか暗くなってしまった（笑がおきる）

もちろん、社会人になった後に転勤や引っ越しで首都圏に来る同窓生もいる。卒業時のPRは必要だ。

H4 年卒

自分はウエルカムパーティがきっかけで評議員になった。が、思い出すと、突然にウエルカムパーティの案内が来た際はびっくりした。卒業して18年間になんらかの情報、継続した連絡などがあった方がよいと感じる。自分たちが準備学年を務めた時、部活動の繋がりから輪が広がっていった。部活動は有効だと思う。個人情報の問題があるので、他の人の連絡先を安易に聞くことができないので、友達から友達へというのも有効だと思う。

支部長

やはり継続的な連絡が大切だということか。

同窓会入会式で支部カードを卒業生へ配布する。カードに記載された情報で、HPへ新卒生からの連絡が来ることがある。メールは住所が変わっても連絡が取れるので、卒業時に連絡をくれた人には、その後毎年総会の案内は出している。やはり卒業時の登録（会費は発生しない）と、その後の継続した情報提供が基本だということか。若い世代はメールの連絡であればそれほど負担には思わないのか？ しょっちゅう郵送でお知らせや文書を送りつけていると、かえって（心理的な負担になり）引かれてしまうようにも思うが？

※若い学年評議員から「そうだ」との反応有り

（若い世代に対しては）今後はメールも活用していく方法を取ろうかと思う。他にはSNSも行っている。こちらはあまり発信してなくて申し訳ないが。そちらも登録してもらい、随時発信していくか…

評議員

SNSはどれくらいの方が登録しているのか。自分は、HPは見ているが、TwitterやFacebookは登録しておらず、使っていない。

役員（広報担当、支部長）

（支部の）FacebookやTwitterは更新頻度が低い。HPの「お知らせ」を更新すると自動的にそれらも更新されるようになっている。登録しなければ見ることができないSNSもあるため、HPを見てもらうのが一番だと思う。HPのお知らせだが、支部からの情報発信も行っているが、それほどアップする情報は無い。逆に学年から情報

を貰えばお知らせに掲載できる。同窓生の活躍、作品や活動の告知などどんどん送ってもらいたい。HPから、または支部メールで連絡し、情報を知らせてほしい。(ネットは誰でも見ることが可能なため)あまり個人的なこと、見られて困ることを掲載するのは危険でダメだが。学年からの情報をアップするなど循環を作っていきたい。貴重な意見をもらっているが、若い世代への育成についての意見もほしい。

S50 年卒

まずは若い世代に同窓会に興味を持ってもらうこと。これが第一だと思う。ウエルカムパーティの場での聞き取りとか、若い世代へのアンケート等で、興味関心があること、必要とすることなど意見を聞いてみてはどうか。まずは意見を聞く、それが大切ではないか。例えば、活躍している同窓生のお話を聞きたいなどの要望が出てくるかもしれない。自分と同じ業種の人や違う業種の人と会って話したいなどの要望もあるかもしれない。若い世代のニーズを収集し総会開催の企画に繋げていけばどうか。総会に出てよかった！と思ってくれる総会でありたい。

役員（支部長）

昨年発行した支部だより特別号はそのような思いも込めた。社会で活躍している同窓生へも寄稿依頼をした。

田中前顧問

総会へ招待した新卒生は、参加して良かったという思いを持って帰ってくれる。その人たちの話を聞いた同級生への輪が広がることもある。

こういうことがあった。新卒生の中で学芸大在学生在がいた。その子と（総会の）トイレで一緒になったので「齋藤先生って知ってる？」と聞いたら「明日授業がある！」「じゃあ、西高卒業生だと言ってごらん」

※齋藤先生：齋藤ひろみさん（S55年卒）学芸大大学院教授。支部だより特別号寄稿

隠れ西高卒と言う人もいる。(笑)何かの話で、山形、西高だとわかることもある。皆さんもいろんな機会に聞いてみたらどうか。そのようなこともあった。

役員（支部長）

たくさんの貴重な意見を貰った。役員会で話し合い、実行できることは行っていく。評議員さんをお願いすることはお願いしていく。

S30 年卒

自分たちの学年は、山形で年に一回クラス会をしている。東京からも行っている。ちょっとしたコミュニケーションが大切。卒業してからの連絡という話もあったが、(18年間の)途中、生活が忙しく同窓会どころではないという時期もある。少し余裕ができる40、50代の頃に、コミュニケーションを取ってみる。難しく考える必要もなく、そんな小さな積み重ねでこれまで繋いできた。

田中前顧問

最後にこれを皆さんにお願いしたい。次世代に繋ぐこと、それは時代や社会情勢によって変わってくる。西高卒業生への思いはもちろん、故郷を同じくする若者たち、日本の若者たち、世界の若者たち。支援していきたい気持ちは大きい。

だから、(特別会計の)支援金は、その時々状況に応じて使ってほしいと思う。コロナ禍で(やまがた育英会の)学生寮で西高生が寂しい思いでいると聞いた。役員有志で支援した。私は西高卒業生や寮の若者たち、若者みんなに元気で希望を持ってほしい。だから、そのために支援金を使ってほしい。(評議員会への)事後承諾でもいいから。そう思いませんか(拍手多数) その時々で次世代を繋ぐ若者のために、ぜひ使ってほしい。

役員（支部長）

ありがとうございます。私の代、次の代と引継ぎ、大切にしていきたい。

3. 事務連絡等

- ・名簿の更新、評議員・代表者の変更がある場合、10月末まで庶務に連絡する(メールでも可)
- ・学生へのカンパ：皆さまの協力により21500円集まりました。後日、駒込寮へ持参予定です。
- ・支部グッズの販売：大盛況でした。